2012年2月14日（火）南日本新聞

女医に多様な働き場所を

鹿大・有田教授が講演

一線の医療現場で働く女性医師の職場環境や生き方を考える講演会が鹿児島市であった。鹿児島大学病院脳神経外科の有田和徳教授は、仕事に加え出産などでキャリア形成にハンディを持つ女性医師の現状を報告し、多様な働き方へ対応する必要性を指摘した。

医師国家試験合格者の女性の割合は30％を超えるが、妊娠、子育てなど契機に30歳代で女性医師の離職が多く、医師不足の一因とされる。キャリアを積む上で大切な時期に辞めざるをえない実情もあるという。

有田教授は「女性医師は診療科別では内科が一番多く脳神経外科は0・5％。外科系を目指す女子学生はまだまだ少ない」と現状を説明。「結婚、出産、育児で就業率が落ち、それが回復していない」と述べ、実働女医数減少の原因の一端にふれた。

さらに「専門医になる試験は難関。試験と、結婚や出産を迎える時期が重なる」と指摘。仕事のほか育児や家事をこなす負担、医師として臨床や手術の経験面で不安を抱える女性医師の声を紹介した。「医師を育てる上で、多様な働き場所や仕事のスタイルに何とか対応していきたい」と話した。

講演は7日、鹿児島市医師会女性医師部会（河野泰子部会長）が企画し、同市医師会館であった。医師や管理栄養士、看護師ら約60人が聴講した。

女性医師の現状について講演する鹿児島大学病院の有田和徳脳神経外科教授
＝鹿児島市医師会館